婦人と新社會

山田わか主筆

九月號

科學宗教及哲學

デモクラシーは果して死んだか

國粹主義と共產主義

勞農壓制政府と露國民

ムッソリーニと自由主義

政治のプラグマテック時代

社會研究者と文藝

通信四ツ

—編輯の後—

大正九年三月二十三日第三種郵便物認可
大正十五年八月二十三日印刷納本

毎月一回一日發行　第七十八號　大正十五年九月一日發行

東京[illegible]婦人と新社會發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

科學宗教及哲學

科學は如何にも具體的であるやうだが、併し、其の實證はあくまでも抽象的である。人間の經驗の唯一部分を說明するだけである。經驗の範圍內にあるのであつて、經驗の全部ではない。

そして、科學はものの善惡、則ち價値を知らない。故に、これを利用するものの意志によつて破壞の用具ともなれば、建設の手段ともなる。

科學を利用する者の動機に從つて善用もされ、惡用もされるものであるから、科學の進步につれて、これを善用する保證が無くてはならない。

そして、其の保證となるものは、價値の最高標準なる宗教である。然で此の宗教と科學とを結びつける機關が必要となつて來るが、其の機關となるものは哲學である。

故に、人間の經驗の全部を統一して眞の文明を建設するには、どうしても科學と宗教と哲學との共同に待たなければならない。

デモクラシーは果して死んだか

國粹主義と共産主義

デモクラシーの幻滅――專制的暴力政治の二樣式――と題し七月五日の名古屋新聞はムッソリーニの國粹的愛國精神の暴壓力と勞農露西亞政府の社會主義的狂暴力とを論じ、「そして民衆の意思を代表すると稱せられる處のムッソリーニとレーニンらによつてデモクラシーの蔑如、無視がかくの如く露骨に表白せられ實行せられるのは何たる逆轉であらう。かくして世界は依然としていつまでも專制的暴力政治の跳梁ばつこにゆだねられるのであらうか」と斷じた後、即ち、七月八日の朝日新聞論説は『歐洲の獨裁政治』たる題下に歐洲のうちに現れた、又、現れようとしてゐる數々の獨裁政治國をあげてゐます。同じく、七月八日の「日本」の論説に於て若宮氏も「自治體の政治」と題して「國家的規模の政治に於ては大多數の國民の政治能力が如何に劣等であつても一人の卓越せる政治家の出現によつて獨裁的に、政治の能率は大いに發揮され得る。これに反して、自治體に於ては市民、町民、村民が直接政治に關與する分量が多大なる爲めに、各個人の政治的能力が自治體の政治の能率を決定する」と云ひ、醜事件は國政に於けるよりも自治體に於て一層頻繁に現れてゐることを論じ、「東京の市政を見よ！」と叫んで、如何に我が國民が自治的に無能力であるかを痛罵して居られます。要するに、以上はデモクラシーが徐々となりとも實行されて行くどころではなく、それとは正反對なる獨裁政治が勃々と

して現れ、却てそれが有効に働いてゐることを名古屋新聞はのゝしり、朝日新聞は難き、日本新聞は現代人の自治的無能力を斷じてゐるのです。

其處で、私も今回はこの問題を扱つて見ようと思ひますが、それには矢張りイタリーとロシアを例にとるのが便宜です。

現代の世界に起つた出來事の中で、かの歐洲大戰爭を除けば、ロシアの共產主義政府の出現とイタリーの國粹主義政府の成立とは確に世人驚異のまとであります。そして、共產主義と國粹主義と云へば全然正反對のもの、徹頭徹尾相容れないものゝように一見思へます。何となれば、共產主義と云へば最も進步した自由政治であり國粹主義と云へば最も固陋な保守政治を想像させられるからであります。

けれども、さう思ふのは勿論單なる理論的の推理であつて、事實に付いて見るならば此の兩者には如何にもよく似た點があります。

ムツソリーニ政府は愛國主義に立脚して、差し當りイタリー國を危ふしそうに思へるものは一切排斥するのみならず、徹底的な手段で其れを撲滅しようとする、從つて或る程度の壓制が伴ふのもやむを得ない。露國に於ては所謂無產階級の獨裁政治であつて、これも亦彼等の主義主張に反對するものは未曾有と云つてよい程の苛酷さをもつて其撲滅を期してゐます。

イタリーに於ても、露國に於ても、新聞紙迄も反對意見のものは其の發行を禁止の狀態にまで壓迫してゐることはわが國諸新聞が報道してゐる處であり、そして「その兩政府は民主々義の最惡なる敵なり」と斷定せしめてゐるのですが、私が今此處でいひたいと思ふことはロシア並にイタリーの施政其のものに對してゞはなく、むしろ、さういふ政策を取らしむるに至つた、乃至、さういふ施政を可能ならしめた兩國

民の狀態であります。ロシア及びイタリーの如き狀態が存在する限りはこれ等二種の極端なる施政が出現せねばならないことに論及して、私共日本國民の參考にしたいと思ひます。

勞農壓制政府と露國民

露國民の殆ど大部分が無學で、形式宗教の奴隷であつたことは世界周知の事實です、それらの無數の愚民の憐れな生活狀態をみて、心あるものは、即ち、普通の良心をもつものはその狀態から國民をすくひたいと希ふのも無理はない勿論、それらの愚民を私利のために利用しようとする輩があることも事實ですが。

　そこで以前の露國の智力階級には種類が二つあつた。そのうちの一つは國民を奴隷視する壓制家であり、もう一つは所謂インテレゲンチヤで、政治に文學に藝術に哲學に於て壓制政府の非をならし、國民の憐れな狀態に同情し、どうかして、その壓制から國民を導きだし解放しやうとして、いはゆる壓制主義を代表してゐる、ロシア帝國政府の怒りを買ひ、死刑に又は流刑に處せられるものが久しい間絶えなかつたのです。

　處で、それ等のインテレゲンチヤは、トルストイを始めとして、國民に不滿の種を植付けたゞけで本當に國民を自由の位置に則ち幸福に導くことはできなかつた。年と共にその數を増してゆくいはゆるインテレゲンチヤなるものは四方八方にのがれてゐたり、ひそんでゐたりして――もち論、その中には公平な正當な本當に國民を幸福に導く可能性ある考へを持つてゐたものもあつたが――愚民を煽動し、極端なる復讐政策をたて本來の帝國政府を倒し永年來の復讐を國民解放の名によつてなしとげようとしてゐたのです。

　この場合一般國民はあまりに無學であるため

に、指導者の言說及び行爲を批判的にみることはできなかつた。彼れらは長い間貧困に苦しめられてゐた矢先へ、急に生活を保障されたり、土地の分配などといふ甘言を與へられて、それを盲信し、その時の指導者を神樣のようにおがんでしまひました。彼れらは自由自在にひき廻され、將來いかなる窮地に陷れられるかといふことなど、考へるいとまもなく大革命を斷行してしまつたのです。

要約すれば、レニンが勞農共和國を設定することができたのは、國民大多數があまりに無學で、貧乏に苦しめられてゐて、その上に苛酷な壓制の下にあつて、心身が殆どまひしてゐて、たゞ、彼れらの心に無意識に働いてゐたものは久しい間の宗敎の敎へによつて服從するといふことだけであつた。そしてこの命令に從ふといふ習慣性と貧苦からのがれさせてやらうといふ言葉とにひきづられて、まんまと復しうの生れ代りとでもいふべきレニン一派に利用されて、そして、今日の不自由極まる、實に、民主々義の敵なる壓制國を造りあげてしまつたのです。

自由平等といふことは名ばかりで、一種の浮浪の徒の獨裁政治が完成してしまひました。そして富を造るといふよりは既製の富をいかにして掠奪すべきかゞ政治の本體であつて、文字に現れてくるロシア政府の施政方針や細目は、たゞ、世界をごまかす宣傳にすぎないと私は考へてゐます。

ですから、今日のこの勞農壓制政府出現の原因は大多數の國民の無學と貧乏と宗敎心の枯渇とに私は歸さうとするものです。

ムツソリーニと自由主義

イタリーにおけるムツソリーニ政府の出現はデモクラシーに反對、乃至デモクラシーの敵であるといふ說がありますが、しかし、イタリー國

民の實狀をみてゐる人はイタリーには、まだデモクラシーが成立する資格がないことを承知してゐます。

たとへ、國民のうちの一少部分が聰明であり**デモクラシーの精神を徹底的に理解してゐても**國民の大部分がそこまで進んでゐない。きくところによればイタリーには無數の浮浪人があつて彼らは平生は窃盗詐欺を仕事としてその他あらゆる卑劣な破廉恥罪を犯してテンとしてはぢることをしらない。そして、さういふやからが政治運動期になるといはゆる運動屋の手下となり野次馬となつて働いてゐるといふことです。

　いはゆる知識階級といはるゝ連中は、すなはち、國政に口をだすような連中は、かれらの意見の實行可能のいかんにかゝはらず、議論のために議論をするといふ調子で、そして、この調子はイタリー國會によく現れてゐるといふことです。遊戲氣分こそないが、いろいろの意見が百出して納まりがつかない。これは南歐人の特質だとはいへ、とにかく、政治本來の特色なる最高の常識によつて實行可能な最善な施政方針をまとめるといふようなことは思ひもよらない**のです。**

　本當にイタリーの國本となつてコツ〳〵と働いてゐる農夫や一部分の職工には何らの意見もなく、從つて、國政に口をだすようなことがないのですから、實に、浮浪の徒や空想家によつて國政は左右されることになる。こういふ種類の連中が社會主義や共產主義者の說に容易に共鳴してゆくのは極めて自然で、そして、これを成り行きにまかせておけばイタリー國の生命は實に旦夕に迫つてくるのは當然です。

　こういふ狀態に際して民主々義の神聖をどんなに大呼してもそれは何にもならないでせう。この狀態からイタリーを救ふものは、ただ、英斷でありました。そしてムツソリーニは英斷そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のものでありました。彼に對する非難はあるとしても、しかし、『命あつてのものだね』といふ言葉がある通り、イタリー人にとつてはイタリー國の存在が絶對必要であり、そして危險な狀態からイタリー國を救つたものはムツソリーニを先頭としたフアシストであつたのです。

イタリーに、もし民主々義が成立するとすれば將來のことで、今までの民主々義はたゞ名ばかりであつて、これをとなへるものゝ多くは國際政治のどれいになつてゐる政治家か、自己權力の扶植ないし私財をつくる手段として民主々義を利用し、一部の勤勉な善良なしかし無學な國民を食はふとするにすぎなかつたものです。

故に壓制であつたかも知れないが、とにかく腐らんしたその狀態に大鐵つゐを下し、正直にイタリー本位の政治を施きうるように國政を整理するにはムツソリーニが必要でありました。

そこでムツソリーニとレニンとを對照して考へて見るとムツソリーニは獨裁政治を斷行して將來の健全な民主々義の基礎、すなはち國民としての正直さと嚴格さと威嚴とを保たうとしてゐるに反してレニンは國民としての將來をなくし、以前の帝政時代の惡性なる壓制主義に歸つてしまつたといへると私は考へます。

政治のプラグマテツク時代

イギリス並に歐洲大陸及びアメリカの新聞雜誌には、一時、一種の豫言が流行してゐましたそして、その豫言とは『デモクラシーは既に用をなして死んでしまつた、デモクラシーの時代は過ぎた』といふのです。

一體、歐洲大戰に英、米、佛を始め、聯合軍が戰つたのはドイツの軍國主義を倒してデモクラシーのために平和な世界を設定しようとするのでした。そして、戰爭終結直後、既成民主々義の延長として主なる列强においては參政權が

婦入にまでも許されました。そして、ウイルソンのいはゆる國民自決主義の如きが盛んにとなへられました。

それらの余波がわが國にまでも及んできて、[redacted]り廻してゐる間に、その本家本元においては、そのデモクラシーはもう死んだ。それは最早國を納める役にはたゝない、むしろ、獨裁政治が有効だ、必要だと叫ばれるようになりました。一時、流行してゐた豫言が適中したわけです。

そして、イタリー、ロシアを始めいくつもいくつも獨裁政治を設定した國があり、なほ、續々と現れてきさうな形勢にあることは朝日新聞もあげてゐるところです。

だが、こゝに注意すべきは、デモクラシーが死んだといふのは、自由主義の空想が死んだので、本當の自由主義が死んだのではないといふことです。

正直な誠意ある獨裁政治は國民の自由を暴壓するのではなく、ただ一時的の空想自由主義に國民が誤られないように、國民の眞の自由を保護するに過ぎない。故に獨裁政治が現はれるの[redacted]へる。

が、イタリーの獨裁政治はプラグマテツクで眞の自由のために「空想自由主義」を撲滅しようとしてゐるに反して、ロシアの獨裁政治は「空想自由主義」のために眞の自由主義を犧牲に供してゐるといへると思ひます。

わが國が社會主義乃至共産主義を恐れるのはその主義主張そのものに對してゞはなく、不良無責任なやからが、乃至は、利己のために何かしようとする人々が無知無學な國民に誤信をしひ、ものゝ善惡を混同させ、その結果、歴史を無視するようになり、二千五百有余年間の祖先の努力の結果である國礎を危し、延ひては現在

及び未來のわが日本國民を窮地に陷らしむることを疑惧するからです。

社會研究者と文藝

文明は無意識の過程とも、又は、有識な過程とも見ることができる。

螺旋形の段梯子を登るように徐々と進んで來た努力と活動は人間が持つて生れた力の結果とも見へ、又は、人間の意志と觀念と聰明な知識の結果とも見られるのである。

たとへば、唯物史觀は前者の見方であり、勞働と資本と知力の調和を社會の基礎とする見方は後者に屬する。そして、前者の見方によれば人間の歷史も自然科學の單なる延長になつてしまう。勿論、大體に於ては、人間は彼自身の努力と活動によつて進歩したには相違ないが、併

金の卵を生む「が鳥」を殺してツイに永久に金のたまごを失ふことを恐れるのです。

し、それが絕對のものでない。

で、一體、人間の進歩を可能ならしめた功績は何であるかを嚴密に研究する時が、今、來てゐる。

今日迄、これを理解しなかつた主もなる原因は文明と云ふものが主もに物質から成り立つてゐると云ふ淺薄なる見解から來てゐるのである

此の淺薄なる見解によると、實に、人間と動物との差は單に度に過ぎないと云ふことになつてしまう。

人間の幸福は、外面からは、物質による故に物資の豐富なるをもつて進歩の主もなる條件と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

考へてしまうのも無理はないけれども、併し、物資が功績の直接の結果であると直ちに斷定することは出來ない。

物資とは、先づ簡單に云へば衣食住のことであつて、功績則ち手段ではない。

別言すれば、功績は目的に達する手段であつて、目的自身ではない。又、功績は富ではない何となれば、富は一時的で、有形で、今日あつて明日は無いもの、これに反して、功績は求久的である。

で、私は、文藝をも亦此の功績の一つに數へる。則ち、文藝は目的ではなく手段であると考へる。そんならば、文藝と云ふ手段は何を目的とし、何を造らうとするかと問はれるなら、其れは、人間生活を望ましき進歩的なものにしよう、そして、望ましからざる退歩的な傾向を阻止しようと　るのが目的だと私は答へようとする。

此處に文藝の社會的意義が存在する。今日社會學が最も必要としてゐるものは人間生活の眞實なる記錄である。けれども、此の眞實の記錄なるものは甚だ少ないのみならず、あつても其れは甚だ不完全である。これに反して想像によつて造り上げられた、とは云へ、文藝的價値ある小說は社會學研究のための材料としては充分である。

「社會學概論」のうちに書いてある通り、狹量な人々は、凡て小說は嘘のかたまりであると云ふ。けれども、社會研究者が要求するのは不完全な事實よりも合理的な創作である。何となればその方が事實に近いから。そして、或る意味に於ては小說は歷史よりも信ずるに足ることがある。

小說家が純眞な藝術家であるならば、彼は彼が生棲する社會のうちの眞理を發見して、そして、最も强い光線のうちに其れをあざやかに現

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

はさうとする。そして、其の眞理が其處に描出されて居れば私共は充分に滿足すべきであつて彼の取扱ふ出來事が事實であらうが無からうが彼の名づけた各人物が實際に生存した者であつても無くてもそんなことは、問題とするに足りない。

　でたらめでなく、本當の人生を取扱ひ、其の描寫が眞理であるならば、其處に扱はれる出來事や名には何等の意味が無いと云ふことを世界は常に認めてゐる。

　併し、今日、間斷なく出版され、そして、無數の讀者に歡迎されてゐる數多の小說のうちに果してどのくらゐの數の小說が眞理を描寫し、前述の功績の一つと數へることが出來、其の目的に對する使命を果し得てゐるだらうか。

　唯、單に、人間の凡ての禍根なる元始的な本能を、自然性乃至人間性として祭り上げようとしてゐる小說が多くはないだらうか？

編輯の後

　一昨夜は隨分久しぶりで平塚明子さんや、山川菊枝さんと話し合ふ機會を得ました。このお二人の外に吉岡彌生さんと、廚川蝶子さんとが來ました。それは、婦人公論の嶋中さんが「家庭爭議」に關して話させようとして御あつめになつたのです。話が三角關係になつた時に、

　山川さん「私達の仲間にはさう云ふ問題は殆んど無いと云つてもいゝ位ひのものですよ。どう云ふものですか。」

　私「年よりの佛いじりを、私は、年よりのおもちやだと此の頃は考へてゐます。知力的でない、そして、もう活動もできない年よりも何にかしらに心を向けて居なければ生きて行けないでせう。年よりばかりぢやない、凡て人間は何にかしらに心を傾けてゐなければ居られない。ですから、思想的でない人間は物慾に熱中したり。又熱中する必要が無くなれば愛慾に、つまり、女あさりに熱中するのです。けれども、あなたの仲間はふだんに心を傾倒してゐる處があるから……。」

　山川さん「では、私達のも心のおもちやですか？」（笑聲）

　私「あなた方のはおもちやと云つては當らないかも知れませんが、まアれ……」（笑聲）

通信四ツ

遙かに暑中御見舞申上ます。

お一家様お變りもあらせられぬ御事と存じますが、炎暑の折柄御自愛を御祈り申上げます。

英國でも先週（七月中旬）室内は八六度まで昇りましたが昨今は晩秋の氣温で御座います。…………目下下層階級に於て石炭購求に困難の有様、二週に一度百ウエイト（百十二封度）より以上は使用出來ず、購入も出來ません。購入許可の札を coal office にて貰ふまで二時間餘を要すると申して居ります。但し中産階級以上は電話で注文すれば、すぐ運搬します（但し二週間に百ウエイト）

先週ボルドンと申す歩兵聯隊のところを見學しましたが來夏までの石炭は蓄藏せられてあります。案内せし此地方の夫人は私がこれに着眼せし事に少しくあわてなさいました。夫人は保守黨婦人會の幹事です。夫人の家にも一千噸以上の石炭がストライキ前に購入してある事を女中が話しました。

ストライキに苦しめられて居るのは下層民であります　富豪等は空吹く風とばかり知らぬ顔して居ります　この階級の人達の申す事は、お前達階級の蒔いた種だ苦しむのはお前達自身でするがよいと申うすのです。

アッパークラスとロークラスとの爭ひが戰時代まで絕えぬ事と信じます。……私の地方にて目下使用して居るものは獨逸石炭です。下層民は今、多くは薪を使用して居ります。…………

七月二十二日

英國にて

眞島智茂

山田わか様

○

先生、この御暑さに御變りは御座いませんか、東京の御暑さは又格別の御事と影ながら御案じ申して居ります。いつも〳〵申譯ないと心に御詫びしつゝもつい御無沙汰ばかり何卒おゆるし下さいませその後相變らず私も無事に消光致して居ります御安心下さいませ。

先月から宮津の女囚刑務所に教誨練習の爲本願寺から參つて居ります。毎日、暑苦しい獄中で可愛相なお友達の御相談相手になつて、種々研究させていただひて居ります。此處へ參りまして一番驚きました事は誰れも彼れもが無宗教で有ると云ふ事で御座います。色々の境遇からこんな處で苦しまなければならぬ人達を見ますと全く一人々々が眞實に目覺めなければならぬと痛切に感ぜさせられますそしてここに居ります大部分の人は貧困な人が多いと云ふ實際を見ますに付けても社會問題の根底は經濟問題だと仰有つた先生の御言葉がうなづけます。

昨春種々先生を御わづらわせ致しました事を今かんがへますと、只々先生に對し感謝致して居る次第で御座います。先生の如き人格者に接せなかつたら、今頃私の魂はどこをさまよつて居るでせう。只々、感慨無量です。でも、今、尙・勉强したい心持ちは矢張り炎えて居ります。あの時、病床に居りました父は已に死し早や一年になんなんとして居ます。あらゆるもののはかなさに泣いた、私は道認の自覺を願ふため、宗教の世界に入れていただきました。眞實に自由無碍な生活をねがふ爲、只々、その爲のみに……けれど今の私は疑問そのものに生きて居ます、けれど必ずこの苦しみも希望の彼岸に達する、道程と信じて努力致して居ります。眞實自分を生かす事を忘れ根底なき自我のもとに社會問題の研究にたづさわらうと致しました當時をはづかしく思ひます。色々不明な事のみ多くて困ります、何卒いつ迄も／＼先生として御指導下さいますやう御願ひ致します、御承知の通り宮津は日本三景の一の橋立の御ざいます處です、何卒是非々々御ひまの折は御見物がてら御涼みにいらして下さいますやう殊に私の居りますここは靜かな處で御座います。夜はフクローが謎の樣な聲でないて居ます。星を仰ぎながら思索を致しますにはもつてこいの場所で御座います。御來駕を御待ち申します。何卒、殘暑の暑さにて又格別で御座いますから御身御大切に、いつ迄も、迷へるものの爲に不斷の燈明を御かゝげ下さいますやう影ながら御祈り致して居ります。

皆樣にも何卒よろしく　　　かしこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

京都にて

長原ヨキ江

山田嘉吉先生
並にわか子先生　御もとに

○

三重縣は日本でのお米の產地だといふ事を聞いてゐましたがなる程どこからどこ迄も水田が青々として居てほんとうに心地よいと思ひましたがその大部分が水の缺乏でからうじて生きて居るやうな稻を見てのどが干からびてしまふやうなやるせなさを感じました。何んだかみんなヒネツコビて居ます。キビ〳〵と雨がふつたらどんなにいいでせう。

丁度十時に山田驛に着き乘合自動車で外宮と內宮を參詣して山田驛にかへると丁度そこに十一時五十分の鳥羽行列車が待つてゐました。それにとびのつて十二時少し過ぎ鳥羽に着きました。鳥羽驛を出るとやせた七十位の正直さうなおばあさんが見ればかわいさうななりをして私に若しあなた方が鳥羽を見物なさるのなら私が御案內して上げますといひました。あんな年をしてお金ほしさに暑い中をトボ〳〵と歩いてそうして居るのを見て涙が出さうになりました。それで私は申しました。だけどおばあさん、あんまり暑いから、それに私達もお腹がすいて居るからどこか好い宿屋を敎へて下さいと。そしたら、古くからやつて居るかたい家を敎へて上げませうといつて、オツツロシー大きな千人位泊れるやうな家へ案內しました。五十錢出しますともつたいないそんなにといつてどうしても取らないのをむりに渡しました。驛から五分もかからない所ですから暑い思ひもさせないで五十錢もうけさせたと思つて多少むねがすいたやうな氣がします。伊勢の大神宮はあなたの仰せの通り何となくゆかしいものですね。全くあゝいふものは永く保存して置くべきですね。參詣人は引きもきらぬ有樣で多くの人が五十錢なげるやうですから私達は十錢づつなげました。この地方は純日本式ですから東京のやうなアイノコ式の所からくるとあのヘンテコな洋裝ガールなんか見えないでほんとうの日本に居るやうな氣がします。

ナビ(子供二人)も私も少しもつかれて居ないもので

すから別府行が大いに主張されて居ます。知らない所へ行つてドヂをふむよりも都合によつたら片道だけ汽船にのつて行こうかとも思ひます。何れ明朝奈良を見てその都合できメます。

I am unconsciously attracted by your foot-printed places.

兄さんに、若い人達にもよろしく。

鳥羽港にて　ヒサ

八月十五日

姉上さま

○

とう〱別府へ來ました。去年の秋、姉さんが御滯在になつた泉孫旅館へ。

下の關の改札場でかなり年をとつた朝鮮人が何か入口を間違へたらしく、切符を驛員に示すとその驛員の態度といつたら實に恐ろしいものでした。何もそんなにツケ〳〵しなくてもよささうなものなど。若しそれが日本人なら何をこのやらうと、どなりつけるでせうが。彼はさも恐れたといふ風にションボリ去つて行きました。

役人風を吹かすといふやうな事がこの頃は大分なくなつて本當にうれしいと思ひますがそれでもやつぱり處々に見られるのでいやな氣持がします。別府へ近よつた時にふと汽車のまどから向ふを見ると「親切料理」と書いた家がありました。見た瞬間に私はそれをオヤキリ料理と讀みました。あんまり馬鹿らしいので柳子が腹をかゝへて笑いましたがこの文字は少しいけませんネ、ザツでなしに私はいやな名前を付けたものだと思ひましたもの。鳥羽の旅館の女中もそれはしとやかでよかつたですが又この泉孫（本家）の女中達もすてきにしとやかです。ぼんやりではないが餘計な事はしやべらないで誠によいうございます。おかげで全く氣分がやすまりました。お湯場の番頭さんが毎月婦人と新社會を讀んでゐる、感謝してゐると云つてゐました……

八月十八日　ヒサ

姉上様

本誌臨時定價表

一册	金十錢	送料五厘
六册	前金五十五錢	（送料共）
十二册	前金壹圓	（送料共）

雜誌代及郵税は前金の事御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと郵券代用は五厘切手にて一割增附錄廣告は御申込次第御送付いたします

大正十五年八月廿三日印刷納本
大正十五年九月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉
東京市牛込區山吹町一九八
印刷人　大杉直次郎
東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八番